

『就業規則』すら無視する当局に怒り！

日刊 動労千葉

87.11.17
No. 2704

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

木原線廃止反対！ 強制出向阻止！

勝浦支部で職場 集会を以て

勝浦支部は十一月九日から十一日まで、全組合員を対象とするオルグを実施した。

本部から水野副委員長、布施書記長も参加する中で、三日間で計九回の小集会を開催し、

- ① 第十二回定期大会方針、
- ② 当面する木原線廃止・第三セクター化に伴う問題点を中心に本部、支部からの提起を受けて、多くの参加者から質問、意見が出され、熱心な話し合いが行われた。

この間、JR当局は「いすみ鉄道」への出向について、労働組合を無視し、JR当局が自ら規定した「就業規則」すら無視し、組合員に対し恫喝をも含めた不当な個人攻撃、動労千葉への不当な組織破壊攻撃をしかけている。この出向攻撃は、動労千葉における今後の出向攻撃の基本的スタイルを決するものである。

われわれは、重大な決意をもって闘うことを決

意しなければならぬ。

計九回の小集会は、どの回も、木原線廃止問題、出向問題を中心に予定時間を上回る活発な討論が展開され、

- ① 強制出向には、あくまでも反対して闘う、
 - ② 木原線問題については、当面、団体交渉による説明を中心に取り組み、
 - ③ 問題が解決するまで、節々をとらえて可能な限り討論を展開し、
 - ④ 組合方針にもとづき、全員が団結して取り組んでいく、
- ことが確認された。
- 木原線廃止反対・強制出向阻止へ向けて、全支部・全職場からさらに強固な闘いを創り出していこう。

〔勝浦支部通信員・発〕

右翼労働戦線「統一」その1

『全良労連』の正体 問題を考える

同盟・JC（金属労協）や総評内の右翼ダラ幹によって八二年全良労協が結成された。この全良労協が一九九〇年の「全的統一」（＝総評解散）をめざし今年二〇日に、これまでの「協議体」から「連合体」へと踏み出そうとしている。

その旗振り人どもは、ストライキの否定を使命

として、なによりも政府・権力の犬になり下がった革マル松崎である。

まさに、十一月二〇日は、四二〇万総評労働者一人ひとりに右翼ダラ幹やファシストどもに道をゆずるのか、それともそれを拒否し当り前の労働運動の道を歩み続けるのかの選択を迫っている。

全良労連の結成とは、総評解体攻撃であり、戦後労働運動の最後の一掃をもくろむ、いわば「戦後総決算」攻撃の中心をなす攻撃である。

彼らは総評を解体し、日本労働運動を軍事大国化と戦争づくりの協力部隊へと変質させようとしてくからんでいるのである。

真紅の組合旗が日の丸に変えられ、組合歌、労働歌が君が代にとって変わったとき日本は、職場は、「平和」は、どうなるのか!? 考えただけでも戦慄せすにはいられない。



1940年（昭和15年）11月23日、大日本産業報国会の創立大会が開かれ、「勤労新体制」は出来上がった。